

スーパー50社、ドラッグストア15社の 2025年推計商圈人口店舗平均(2010年比)

自治体レベルの将来推計人口は発表されているが、もっと小売業の店舗に紐づけた形でデータを示すことができないか……。そこで小誌は商圈分析サービスを手がける技研商事インタナショナル社にデータ提供を依頼。「スーパー」は、総合スーパー、食品スーパー、ディスカウントストアの売上規模上位一五社と地域性を考慮した三五社の計五〇社、「ドラッグストア」は売上規模上位一五社をそれぞれ選出。メインの業態を中心とした各店舗(選出した業態名と店舗数は三六ページを参照)の二〇一〇年商圈人口と、それを基にした二〇二五年の推計商圈人口、その増減率を一覧表でまとめた。マンション開発などの与件は考慮しておらず、実際の商圈人口との乖離はある。だが、予測指標の一つとして参考になると思う。

【スーパー】

八割の店舗で 商圈人口が減少する

二五ページの図は、小誌が選出したスーパー五〇社メイン業態の二〇一〇年商圈人口と、二〇二五

年の推計商圈人口の全店平均値、およびその増減率を示したものだ。企業別では観光産業で潤う沖縄県の金秀商事、首都圏地盤のマルエツを除く全社で減少の見通し。減少幅もやはり人口減が進む東北、四国が大きく、一キ商圈ではユニバース、伊徳、サニーマー

トが二桁減に。二桁までいかなかったも、そもそも絶対数の少ない東北、信越などでは影響が大きい。

それでは店舗別ではどうか。推計商圈人口の増減率が最も高くなる店舗、逆に最も低くなる店舗のトップスリーは三〇ページ以降に記載のとおりだ。

今回の調査で分析したスーパーの店舗数は六四九一店。そのうち、二〇二五年に減少に転じるのは五一九一店舗。実に全体の八割の店舗で商圈人口が減少すると推測されており、そのうち二桁減となるのが一四七二店舗(全体の二三%)にも上ると見られることがわかった。

逆に人口減時代でも商圈人口

が増える店舗は一三〇〇店(二割)ある。ただし、二桁増となるのは全体のわずか〇・八%の五〇店にとどまる。当然そうした立地をめくり出店ラッシュが起き、それ以外の地域では厳しい経営環境が待っている。この数字からだけでも、この先小売業に与えるインパクトの大きさが想像できよう。

つぶさに見ていくと、減少率が最も高いと推計されたのが、北海道を代表する三極(アークス、コピーさっぽろ、イオン)の店舗だ。三九%減のコピーさっぽろ夕張清陵店(夕張市)に始まり、同あかびら店(赤平市、三三%減)、同ふくしま店(福島町、三三%減)、

スーパー50社の1km/3km商圈平均人口(総数)と増減率

単位:人,%

		店舗平均(1km商圈)			店舗平均(3km商圈)		
		2010年 人口総数	2025年 推計人口	増減率	2010年 人口総数	2025年 推計人口	増減率
全国	イオンリテール	16,851	16,335	▲3.1	121,363	117,255	▲3.4
	イトーヨーカ堂	31,211	30,426	▲2.5	219,025	213,676	▲2.4
	ユニー	13,101	12,793	▲2.4	91,546	89,197	▲2.6
	ドン・キホーテ	23,712	23,133	▲2.4	183,762	179,363	▲2.4
	西友	27,546	27,017	▲1.9	199,994	196,377	▲1.8
	トライアルカンパニー	8,701	8,287	▲4.8	60,792	57,567	▲5.3
北海道	アークス(道内店舗)	14,628	13,854	▲5.3	92,738	88,689	▲4.4
	コープさっぽろ	12,932	11,800	▲8.8	76,281	71,175	▲6.7
	イオン北海道	14,742	13,909	▲5.6	100,556	95,491	▲5.0
	マックスバリュ北海道	17,845	17,124	▲4.0	117,531	113,876	▲3.1
東北	ヨークベニマル	9,148	8,614	▲5.8	57,319	54,085	▲5.6
	ユニバース	9,288	8,233	▲11.4	52,418	46,321	▲11.6
	ヤマザワ	8,763	8,277	▲5.5	52,522	49,624	▲5.5
	ベルジョイス	6,752	6,256	▲7.3	41,474	38,423	▲7.4
	伊徳	6,914	5,872	▲15.1	34,336	29,353	▲14.5
関東	マルエツ	38,677	38,724	0.1	304,519	304,395	0.0
	ヤオコー	19,321	18,942	▲2.0	130,346	127,605	▲2.1
	オーケー	38,283	38,216	▲0.2	308,376	306,877	▲0.5
	ダイエー	36,325	35,533	▲2.2	255,265	249,327	▲2.3
	ベイシア	5,416	5,091	▲6.0	38,886	36,677	▲5.7
	サミット	46,323	45,642	▲1.5	379,819	373,056	▲1.8
	カスミ	11,782	11,490	▲2.5	71,952	69,974	▲2.7
	オオゼキ	56,789	56,531	▲0.5	458,187	455,466	▲0.6
信越	原信ナルス	7,962	7,319	▲8.1	45,047	41,243	▲8.4
	PLANT	4,032	3,771	▲6.5	26,427	24,625	▲6.8
	ツルヤ	6,200	5,736	▲7.5	38,235	35,427	▲7.3
	アルビス	8,689	8,329	▲4.1	58,432	55,235	▲5.5
東海	パロー	10,810	10,354	▲4.2	73,056	70,058	▲4.1
	マックスバリュ東海	13,134	12,346	▲6.0	79,093	74,500	▲5.8
	マックスバリュ中部	15,444	14,957	▲3.2	113,883	110,884	▲2.6
	フィールコーポレーション	17,480	17,281	▲1.1	128,215	126,393	▲1.4
	スーパーサンシ	7,776	7,503	▲3.5	51,083	49,853	▲2.4
関西	ライフコーポレーション	41,974	40,920	▲2.5	335,202	325,125	▲3.0
	平和堂	13,903	13,633	▲1.9	89,324	86,866	▲2.8
	万代	29,832	27,975	▲6.2	224,718	210,449	▲6.3
	オークワ	9,554	8,824	▲7.6	63,563	59,121	▲7.0
	イズミヤ	33,215	31,215	▲6.0	247,467	232,191	▲6.2
	関西スーパーマーケット	38,411	36,828	▲4.1	258,070	246,273	▲4.6
	マルアイ	17,705	16,931	▲4.4	114,648	109,091	▲4.8
中四国	イズミ	9,860	9,359	▲5.1	61,662	58,461	▲5.2
	フジ	11,726	10,941	▲6.7	69,864	65,584	▲6.1
	マックスバリュ西日本	11,035	10,504	▲4.8	71,909	67,925	▲5.5
	マルナカ	8,208	7,435	▲9.4	48,165	44,013	▲8.6
	フレスタ	15,034	14,553	▲3.2	95,662	92,561	▲3.2
	サニーマート	10,170	9,150	▲10.0	60,889	54,903	▲9.8
	九州	イオン九州	12,504	12,215	▲2.3	85,164	83,142
サンリブ	13,642	12,959	▲5.0	81,460	77,685	▲4.6	
マックスバリュ九州	13,333	13,013	▲2.4	82,409	80,102	▲2.8	
タイヨー	11,900	11,271	▲5.3	70,314	66,847	▲4.9	
金秀商事	16,172	16,444	1.7	96,946	98,487	1.6	

技研商事インターナショナルの商圈分析GIS(地図情報システム)『MarketAnalyzer™』で作成

マックスバリュ北海道赤平市(赤平市、三二%)、同芦別店(芦別市、三〇%)、そしてアークスグループのラルズマート芦別店(芦別市、三〇%)と続く。三割減の店舗は今回の調査ではこの六店舗のみ。中でも夕張清陵店は、三_キ圏内の二〇一〇年人口総数が四二四九人。これが二五〇〇人強にまで落ち込むと推測されている。

この六店舗ほどではないものの、一三一店舗が二割減、一三四九店舗が一割減の推計となっており、該当する立地も北海道から一気に全国へと拡大する。

一方で、視点を減少率でなく減少数で見ると、また違った側面が見えてくる。減少数の多い順に並べ直すと、上位一〇店舗に上がってくるのは全て東京都。しかも全て杉並区だ。

推計値で最大の下げ幅となったのが、サミット成田東店で七万七〇〇〇人(一五・五%減)で、続いて同妙法寺前店六万九〇〇〇人(二二・六%減)、イトーヨーカドー食品館阿佐谷店六万九〇〇〇人

(二三・八%減)。このほか西友、ドン・キホーテ、オーケー、オオゼキも名を連ねる。これらの店舗はいずれも二〇一〇年の商圏人口が五〇万人前後と肥沃だが、減少数も約七万人と地方の比ではない。母数そのものが少ない地方と比べれば恵まれていると言えるかもしれないが、都心部はその分競争も激しい。その中で商圏人口一割減の影響は小さくないはずだ。

このことは、人口減の影響が地方ばかりでなく、都心部でもこの先大きな問題となる可能性を示していると言えるよう。

増加率トップは茨城県つくば市

では、わずか〇・八%のオアシスはどこなのか。増加率の高い上位一〇店舗を見ると、そのうちの九店舗は全て茨城県つくば市に集中している。しかも増加率でトップとなる一五・三%増と推計された「グラン・プルシェ」など、九店舗のうち実に五店舗をカスミが占める。

他はカスミと競合するヨークベニマルのほか、ドン・キホーテ、西友、トライアルカンパニーといったデイスカウンターが名を連ねた。都心へのアクセスに便利なつくばエクスプレスや、学術研究都市として教育に力を入れていることが子育てファミリーをつくば市に引きつけている理由だろう。

このほか、オーケーやマルエツが店舗を構える東京・台場や、高層マンションなどの開発が急ピッチで進む東京都中央区の勝どき、月島、晴海エリアも上位に入った。

ただし、減少率同様、増加率の高さと足元商圏の厚さが直結するわけではない。先述のカスミのグラン・プルシェも、二〇一〇年比で増加が見込まれるのは三_キ圏内だけで二万人弱にとどまる。この増加分は、東京都世田谷区にあるサミットストア松陰神社前店の増加分、一万人強を下回る。ちなみに同店の増加率はわずか二・一%だ。

増加数で見れば、二〇一〇年比

で二〇二五年に三万人以上増える商圏の店舗は二〇店舗。そのうち一七店舗が東京都二三区内、しかも江東区、中央区、墨田区に集中している。トップはオオゼキの門仲牡丹店(江東区)で、実に四万三〇〇〇人も増えると推計されている。イトーヨーカ堂の旗艦店である木場店も三万七〇〇〇人の増加が見込まれている。

世代別では全店で子ども、現役世代が減少する

ただし、二〇二五年時点では商圏人口が増えていたとしても、恩恵を受けられる店舗数が少なくなるのは間違いない。二七ページには三_キ圏に絞り、年少人口(一五歳未満)、生産者年齢人口(一五〜六四歳)、高齢者人口(六五歳以上)の世代別で捉えた図を掲載した。シニアが増える一方、子どもと現役世代は減る。それは沖繩の金秀商事、首都圏のマルエツを含む全社に共通している。細る需要を取りに行くビジネスモデルへのシフトが求められている。

スーパー50社の3km圏圏平均人口(世代別)と増減率

単位:人、%

		2010年 年少人口	2025年 推計 年少人口	増減率	2010年 生産年齢 人口	2025年推計 生産年齢 人口	増減率	2010年 高齢者 人口	2025年 推計 高齢者人口	増減率
全国	イオンリテール	15,910	13,074	▲17.8	79,121	71,975	▲9.0	24,898	32,206	29.3
	イトーヨーカ堂	26,869	22,672	▲15.6	145,607	134,609	▲7.6	44,136	56,395	27.8
	ユニー	12,810	10,605	▲17.2	59,057	54,309	▲8.0	18,828	24,283	29.0
	ドン・キホーテ	21,935	19,049	▲13.2	122,440	113,255	▲7.5	36,608	47,059	28.5
	西友	24,370	20,914	▲14.2	133,380	123,738	▲7.2	38,891	51,725	33.0
	トライアルカンパニー	8,453	6,618	▲21.7	38,830	33,821	▲12.9	13,033	17,128	31.4
北海道	アークス(北海道シエア)	10,371	8,342	▲19.6	62,211	52,531	▲15.6	19,860	27,816	40.1
	コープさっぽろ	8,739	6,701	▲23.3	50,257	41,223	▲18.0	17,076	23,251	36.2
	イオン北海道	11,621	9,109	▲21.6	67,116	56,204	▲16.3	21,489	30,179	40.4
	マックスバリュ北海道	12,992	10,776	▲17.1	79,772	68,202	▲14.5	24,373	34,898	43.2
東北	ヨークベニマル	8,092	6,245	▲22.8	36,902	32,273	▲12.5	11,683	15,567	33.2
	ユニバース	6,843	4,748	▲30.6	33,327	26,674	▲20.0	11,864	14,898	25.6
	ヤマザワ	7,256	5,632	▲22.4	33,462	29,190	▲12.8	11,428	14,802	29.5
	ベルジョイス	5,741	4,312	▲24.9	26,444	22,831	▲13.7	8,914	11,280	26.5
	伊徳	4,098	2,764	▲32.5	21,020	16,048	▲23.7	9,076	10,542	16.2
関東	マルエツ	33,942	30,929	▲8.9	207,884	199,471	▲4.0	58,099	73,995	27.4
	ヤオコー	17,250	14,175	▲17.8	85,974	78,385	▲8.8	26,020	35,045	34.7
	オーケー	35,945	31,939	▲11.1	208,167	198,631	▲4.6	59,496	76,307	28.3
	ダイエー	30,950	26,497	▲14.4	168,562	156,403	▲7.2	52,779	66,426	25.9
	ベイシア	5,503	4,183	▲24.0	24,844	21,727	▲12.5	8,307	10,768	29.6
	サミット	41,167	36,869	▲10.4	256,930	243,006	▲5.4	74,081	93,180	25.8
	カスミ	9,597	7,900	▲17.7	47,120	42,633	▲9.5	14,631	19,442	32.9
	オオゼキ	46,615	43,902	▲5.8	315,664	303,651	▲3.8	87,673	107,913	23.1
信越	原信ナルス	5,970	4,587	▲23.2	28,119	23,836	▲15.2	10,605	12,821	20.9
	PLANT	3,875	2,962	▲23.5	16,263	14,221	▲12.6	6,008	7,442	23.9
	ツルヤ	5,545	4,120	▲25.7	23,466	20,570	▲12.3	9,058	10,738	18.6
	アルビス	7,753	6,301	▲18.7	36,781	32,365	▲12.0	13,224	16,569	25.3
東海	パロー	10,174	8,310	▲18.3	46,460	42,048	▲9.5	15,636	19,700	26.0
	マックスバリュ東海	10,752	8,446	▲21.4	50,450	44,234	▲12.3	17,343	21,820	25.8
	マックスバリュ中部	14,759	12,730	▲13.7	73,536	67,861	▲7.7	23,602	30,293	28.3
	フィールコーポレーション	17,915	15,190	▲15.2	83,415	77,863	▲6.7	25,528	33,341	30.6
	スーパーサンシ	7,559	6,012	▲20.5	32,895	31,014	▲5.7	10,219	12,827	25.5
関西	ライフコーポレーション	38,197	33,055	▲13.5	222,329	205,853	▲7.4	69,939	86,217	23.3
	平和堂	12,607	10,346	▲17.9	57,268	52,338	▲8.6	18,517	24,182	30.6
	万代	29,611	22,701	▲23.3	142,270	126,371	▲11.2	50,030	61,377	22.7
	オークワ	8,731	6,575	▲24.7	39,872	34,905	▲12.5	14,332	17,641	23.1
	イズミヤ	30,613	24,323	▲20.5	158,022	139,644	▲11.6	55,792	68,224	22.3
	関西スーパーマーケット	32,885	26,744	▲18.7	166,132	149,655	▲9.9	56,538	69,874	23.6
	マルアイ	16,535	12,682	▲23.3	73,756	65,644	▲11.0	23,611	30,766	30.3
	イズミ	8,440	7,043	▲16.5	39,096	34,437	▲11.9	13,130	16,981	29.3
中四国	フジ	9,403	7,634	▲18.8	44,495	38,694	▲13.0	14,780	19,256	30.3
	マックスバリュ西日本	10,175	7,943	▲21.9	45,811	40,571	▲11.4	15,321	19,412	26.7
	マルナカ	6,444	5,047	▲21.7	29,843	25,283	▲15.3	10,909	13,683	25.4
	フレスタ	13,029	11,396	▲12.5	61,333	55,614	▲9.3	18,954	25,551	34.8
	サニーマーケット	7,741	6,145	▲20.6	37,946	31,459	▲17.1	14,139	17,299	22.4
	イオン九州	11,839	10,234	▲13.6	55,464	49,480	▲10.8	17,069	23,428	37.3
九州	サンリブ	10,795	9,057	▲16.1	52,052	45,526	▲12.5	17,603	23,103	31.2
	マックスバリュ九州	11,566	9,740	▲15.8	53,703	47,846	▲10.9	16,200	22,516	39.0
	タイヨー	9,821	8,393	▲14.5	45,296	39,095	▲13.7	14,408	19,359	34.4
	金秀商事	17,189	14,842	▲13.7	63,130	60,268	▲4.5	15,872	23,377	47.3

技研商事インターナショナルの圏圏分析 GIS (地図情報システム) 『MarketAnalyzer™』で作成

【ドラッグストア】

全国チェーンの減少は 小幅にとどまっています

ドラッグストアでは二〇一六年
度業績の上位一五社を選出した。
これまで各社が買収してきたド
ラッグチェーンも含む。

一^〇圏に注目してみると、全国
チェーンのウエルシアHD以下、
ツルハHD、マツモトキヨシHD、
サンドラッグ、ココカラファイン、
富士薬品の二五年における推計商
圏人口増減率は二〜三%台でとど
まっている。中でも化粧品を強み
とし、駅前立地など比較的都心部
に強いマツキヨHDは二・三%と、
全国チェーンの中で最も低い。

ただし、全国チェーンより際立
つのは地域特性が出るリージョナ
ル企業だ。〇・九%と最も減少率
が低いクリエイトSDHDは、神
奈川県から東京、静岡、千葉にか
けてドミナントを形成。人口総数、
推計人口も約二万六〇〇〇人と最
も多い肥沃な商圏だ。愛知県を地



薬王堂の推計人口増減率は大手チェーンの中で唯一、2桁減となった

加え、近年は食品の品
揃えを強化することで
より広域からの集客と
買い物頻度の向上を
狙っている。逆に言え
ばそうしなければ成り
立たない商圏というこ
とだ。

クスリのアオキHD、
コスモス薬品、ゲ
ンキードラッグスト
アーズといった地方出
身企業は四〜六%台と
比較的高め。意外なの
は、関西地区で店全体
の八割を占めるキリン
堂HDも四%台である
こと。だが個店のデータを細かく
見ると、大阪府内の店舗だけでも
二五年の商圏人口減少率は四%台
となっており、大阪と言っても一
括りにはできない。

東京都中央区をがっちり 固めるマツモトキヨシ

今回、選定した店舗数は計一万
二八二八店。スーパー五〇社で選

定した約六四〇〇店舗の倍の数と
なる。興味深いのは、スーパー同
様、ドラッグストアも推計商圏人
口が減少する店舗は全体のおよそ
八割（九八五九店、七六・九%）
となったことだ。そのうち二桁減
となるのが三〇七〇店舗、全体の
二四%にあたり、こちらもスー
パーの二三%と近い。

最も減少率が高かったのも、こ
れまた同様に北海道夕張市の店
舗。ココカラファイン平和店が三
八・五%減の推計値を示した。続
くのは長崎県対馬市にあるマツモ
トキヨシの大浦バリエュー店が三
七・二%減、北海道赤平市のツル
ハドラッグ赤平店（三六・四%）、
同三笠市のツルハドラッグ三笠店
（二五・七%）と続く。

では減少数ではどうか。上位に
来るのはこちらも東京都杉並区。
一^〇商圏の七万人から一万五〇〇
〇人近く減少と推計されたのはツ
ルハドラッグ高円寺店。同じく高
円寺、阿佐ヶ谷近辺でドミナント
を固めるサンドラッグは四店舗が
減少数で上位に並ぶ。

ドラッグストア15社の 500m/1km商圈平均人口(総数)と増減率

単位:人、%

	店舗平均 (500m 商圈)			店舗平均 (1km 商圈)		
	2010年 人口総数	2025年 推計人口	増減率	2010年 人口総数	2025年 推計人口	増減率
ウエルシアHD	5,257	5,090	▲3.2	19,224	18,584	▲3.3
ツルハHD	4,535	4,368	▲3.7	16,676	16,074	▲3.6
マツモトキヨシHD	6,542	6,395	▲2.2	24,946	24,372	▲2.3
サンドラッグ	5,312	5,169	▲2.7	20,067	19,512	▲2.8
コスモス薬品	2,582	2,472	▲4.3	9,403	8,969	▲4.6
スギHD	6,385	6,218	▲2.6	23,875	23,205	▲2.8
ココカラファイン	7,021	6,772	▲3.5	26,135	25,234	▲3.4
富士薬品	5,246	5,111	▲2.6	18,675	18,174	▲2.7
カワチ薬品	2,409	2,314	▲3.9	8,822	8,422	▲4.5
クリエイトSDHD	7,236	7,170	▲0.9	26,645	26,411	▲0.9
クスリのアオキHD	2,655	2,505	▲5.6	9,483	8,917	▲6.0
キリン堂HD	6,283	6,022	▲4.2	23,327	22,316	▲4.3
中部薬品	3,205	3,117	▲2.7	11,792	11,421	▲3.1
Genky DrugStores	1,891	1,811	▲4.2	7,057	6,712	▲4.9
薬王堂	1,394	1,251	▲10.3	4,703	4,185	▲11.0

逆に増加率では、推計二割増が四店舗だった。トップは宮城県名取市のカワチ薬品美田園店で二六%増。続いても宮城で、薬王堂富谷成田店(約二四%)、カワチ薬品富谷店(二三%)が上位を占める形となった。富谷市は、東北

六県の市区町村で唯一、四五年に一五年の国勢調査時点より人口が増えていると推計されている自治体だ。仙台市のベッドタウンであり、多くの子育て

ドラッグストア15社の1km商圈平均人口(世代別)と増減率

単位:人、%

	2010年 年少人口	2025年 推計 年少人口	増減率	2010年 生産年齢 人口	2025年 推計 生産年齢人口	増減率	2010年 高齢者人口	2025年 推計 高齢者人口	増減率
ウエルシアHD	2,473	2,028	▲18.0	12,608	11,485	▲8.9	3,931	5,070	29.0
ツルハHD	2,050	1,759	▲14.2	11,014	9,922	▲9.9	3,386	4,393	29.7
マツモトキヨシHD	2,901	2,614	▲9.9	16,702	15,431	▲7.6	4,944	6,326	28.0
サンドラッグ	2,505	2,134	▲14.8	10,221	8,784	▲14.1	3,587	4,430	23.5
コスモス薬品	1,380	1,090	▲21.0	5,969	5,299	▲11.2	1,975	2,580	30.6
スギHD	3,023	2,559	▲15.3	15,684	14,427	▲8.0	4,863	6,218	27.9
ココカラファイン	3,006	2,650	▲11.9	17,355	15,859	▲8.6	5,314	6,725	26.6
富士薬品	2,476	2,030	▲18.0	12,342	11,280	▲8.6	3,714	4,864	31.0
カワチ薬品	1,281	982	▲23.3	5,697	5,100	▲10.5	1,764	2,340	32.7
クリエイトSDHD	3,406	2,861	▲16.0	17,784	16,576	▲6.8	5,259	6,973	32.6
クスリのアオキHD	1,338	1,040	▲22.3	5,989	5,292	▲11.6	2,072	2,585	24.8
キリン堂HD	3,085	2,487	▲19.4	15,027	13,561	▲9.8	4,949	6,269	26.7
中部薬品	1,681	1,376	▲18.2	7,545	6,939	▲8.0	2,454	3,106	26.6
Genky DrugStores	1,043	815	▲21.9	4,443	4,017	▲9.6	1,505	1,880	24.9
薬王堂	659	457	▲30.6	2,910	2,417	▲17.0	1,109	1,312	18.3

上下ともに技研商事インターナショナルの商圈分析 GIS (地図情報システム)『MarketAnalyzer™』で作成

性はある。新たな追い風となる可能性がある。

ドラッグストアはローコストのビジネスモデルゆえ、多店舗展開を進めてきた。だが商圈人口がどんどん減っていく中、そのモデルを続けていけるかどうかは不透明だ。一段のローコスト化か、それとも店舗に機能を付加し、広域商圈を取りに行くか。マイナス要素の強い人口減だが、見方を変えればドラッグストア業界にとっては、

では東京がダントツだ。増加数のトップ一〇推計に並ぶのは全て東京都中央区の月島、勝どき、日本橋。ここで驚くのはトップ一〇の全てでマツモトキヨシグループ(ばばす八店舗、マツモトキヨシ二店舗)が占めている点だ。好立地をきっちり占拠することが、推計商圈人口の減少率を大幅に収められている理由でもあるだろう。

〈データの算出方法について〉

●スーパー 50社、ドラッグストア15社を選出し、各店舗の商圏人口を2010年（2010年国勢調査）、2025年（2010年の国勢調査を元に推計）の両方で算出、それを元に人口総数、世代別人口の全店平均値を示した

●企業選定は、「スーパー」は総合スーパー、食品スーパー、ディスカウントストア各社の中から16年度売上高上位15チェーンと、地域性を考慮し35チェーンを選出。「ドラッグストア」は16年度売上規模上位15チェーンを選出した。店舗選定は、各企業のメイン業態全店（4月末時点）で、必ずしも一企業の全業態を扱っているわけではない（例えば、マックスバリュ各社の場合、ディスカウントストアのビッグ業態は含まれていない）。またドラッグストアに併設する調剤薬局店舗はカウントしていない

●データ算出にあたっては、2010年の商圏人口は、店舗所在地から指定半径内の人口を2010年国勢調査を元に面積按分して算出。2025年の推計商圏人口は2010年の国勢調査を元に、国の将来推計係数をかけ合わせて導き出したもの。なお、周囲にマンションが建つなどの、人口統計以外の与件は分析に加えていない

●2015年の最新の国勢調査データを元にした推計商圏人口の算出は、技研商事インターナショナルがサービスを開発中。リリースでき次第、激流誌面にて最新データを発表する予定

分析に用いた企業の主なブランド名と店舗数

スーパー	企業名	主なブランド名	店舗数
	イオンリテール	イオン、イオンスタイル	417
	イトーヨーカ堂	イトーヨーカドー	167
	ユニー	アピタ、ピアゴ	191
	ドン・キホーテ	ドン・キホーテ、MEGA ドン・キホーテ、ピカソ	358
	西友	西友、サニー、リヴィン	333
	トライアルカンパニー	トライアルスーパーセンター、 トライウェル、メガセンター	218
	アークス(道内店舗)	アークス、ラルズ、フク ハラ、東光ストア	210
	コープさっぽろ	コープさっぽろ	108
	イオン北海道	イオン	37
	マックスバリュ北海道	マックスバリュ、マックス バリュエクスプレス	60
	ヨークベニマル	ヨークベニマル	222
	ユニバース	ユニバース、Uマート、ファル	57
	ヤマザワ	ヤマザワ	67
	ベルジョイス	ベルジョイス、ビッグハウス	61
	伊徳	いとく	25
	マルエツ	マルエツ、マルエツプチ	297
	ヤオコー	ヤオコー	159
	オーケー	オーケーストア	109
	ダイエー	ダイエー、グルメシティ	175
	ベイシア	ベイシア、スーパーセン ター、フードセンター、 ベイシアマート	130
	サミット	サミット	110
	カスミ	カスミ(フードマーケット)、 フードスクエア、フードオ フストッカー、ブルシェ	186
	オオゼキ	オオゼキ	38
	原信ナルス	原信、ナルス	79
	PLANT	プラント	24
	ツルヤ	ツルヤ	33
	アルビス	アルビス	52
	パロー	パロー	243
	マックスバリュ東海	マックスバリュ、マック スバリュエクスプレス	107
	マックスバリュ中部	マックスバリュ、マック スバリュエクスプレス	104
	フィールコーポレーション	フィール、エクボ	72
	スーパーサンシ	スーパーサンシ	13
	ライフコーポレーション	ライフ、セントラルスクエア	268
	平和堂	アル・プラザ、 フレンドマート、エール	162

万代	万代	146
オークワ	オークワ、スーパーセンター、 プライスカット、パレマルシェ	160
イズミヤ	イズミヤ、まるとく市場	84
関西スーパーマーケット	関西スーパー	65
マルアイ	マルアイ	59
イズミ	ゆめタウン、ゆめマート ※(株)ゆめマートの店舗を除く	104
フジ	フジ、フジグラン、パルティ・フジ	94
マックスバリュ西日本	マックスバリュ、マックスバ リュエクスプレス	141
マルナカ	マルナカ、パワースティ	148
フレスタ	フレスタ、パルティ、レッツ、 おかず工房	61
サニーマート	サニーマート、毎日屋	35
イオン九州	イオン	67
サンリブ	マルショク、サンリブ	147
マックスバリュ九州	マックスバリュ、マックスバ リュエクスプレス	133
タイヨー	タイヨー、サンキュー	94
金秀商事	かねひで	61

ドラッグストア	企業名	主なブランド名	店舗数
	ウエルシアHD	ウエルシア、ハックドラッグ、 ハッピードラッグ、ダックス	1,736
	ツルハHD	ツルハドラッグ、レデイ薬局、 くすりの福太郎、ウオンツ、 ウエルネス、杏林堂、B&D	1,960
	マツモトキヨシHD	マツモトキヨシ、どらっくば ばす、ダルマ薬局、シメノド ラッグ、くすりのラブ、みど り薬局	1,591
	サンドラッグ	サンドラッグ、ダイレックス	1,059
	コスモス薬品	コスモス薬品	897
	スギHD	スギ薬局、スギドラッグ、ジャ パン	1,109
	ココカラファイン	ココカラファイン、ジップド ラッグ、ライフオート、コダ マ、セイジョー、セガミ、シー ズ調剤薬局	1,257
	富士薬品	セimus	707
	カワチ薬品	カワチ薬局	283
	クリエイトSDHD	クリエイト	592
	クスリのアオキHD	クスリのアオキ	450
	キリン堂HD	キリン堂	362
	中部薬品	V・ドラッグ	367
	Genky DrugStores	ゲンキー	213
	薬王堂	薬王堂	245